



ジャイアントスラローム成年女子B 荒井美桜選手が見事優勝！！

荒井選手国体女王に返り咲く！



【荒井選手】

冬季大会最終日（20日）、気温-1℃と小雪が舞う中、ジャイアントスラローム成年女子B（24歳以上）に荒井美桜選手（株）イデアと松田恕子選手（株）村田製作所）が出場した。

国体優勝経験のある荒井選手は、この大会に懸ける思いが強く、直前まで北海道で合宿を行うなど、万全のコンディションで臨んだ。出場選手の中には、今年度の全日本選手権優勝者や元オリンピック選手もエントリーしており、ハイレベルな展開が予想される中、37番目にスタートした荒井選手は、「絶対に勝つ！」という会心の滑りでフィニッシュ、見事優勝を果たした。レース後、荒井選手は、「スタート前は少し緊張したが、勝つために準備してきたのでとにかく嬉しい！」と最高の笑顔。

また、今回が国体初出場の松田選手は「目標であった完走ができて良かった」と難コースに果敢に挑んだ姿がとても頼もしく見えた。それぞれの目標が達成できた2人の表情には喜びが溢れていた。



【左から：荒井選手、松田選手】

後輩へつなぐ熟練の滑り

ジャイアントスラローム成年男子C（34歳以上）は3選手が出場した。久家行選手（高治工務店）は国体に20年以上連続出場しており、「以前、けがをしたコースで恐怖心が若干あったが、楽しんで滑れた」とベテランならではの素晴らしい滑りを見せてくれた。石井登希雄選手（福岡レーシングスキークラブ）は「完走できてほっとしている」とコメント。最後から2番目の滑走となり、ゴール直前でコースアウトしてしまった山道正明選手（合同会社サイバーインベンストメント）は「待ち時間が長くて、最後まで足がもたなかった」と悔しさを口にした。しかし、3人のベテラン選手は、難関コースを攻略し、後輩つながる素晴らしい滑りを見せてくれた。



【左から：山道選手、久家選手、石井選手】

若き福岡県選手団 今後につながる滑走

【少年女子】

約1時間遅れで開始となったジャイアントスラローム少年女子。日差しもあり気温2℃と競技には絶好のコンディションの中、福岡県からは小野愛果（北九州市立則松中学校）と今村さくら（筑紫女学園高等学校）の2名が出場した。今村選手は「初めてこのような難しいコースを滑って、凄く大変だった」とコメント。小野選手は「難しかったけど、またチャレンジしたい」と前向きな姿が印象的だった。難関コースを滑りきった2名の選手は次につながる滑りを見せてくれた。



【左から：今村選手、小野選手】

【少年男子】

福岡県選手団が出場する最後の種目となったジャイアントスラローム少年男子。福岡県からは古江泰己選手（近畿大学附属福岡高等学校）と上杉壮選手（北九州市立南曾根中学校）の2名が出場した。2人は難コースにも屈せず見事に完走。古江選手は「楽しく滑ることができた」とコメント。上杉選手は「すごく難しいコースで怖かったけど、完走できてよかった」と笑顔で語ってくれた。2名の選手ともに「来年の国体にも是非出場したい」と強い決意を見せてくれた。今後の活躍に期待したい。



【左から：上杉選手、古江選手】